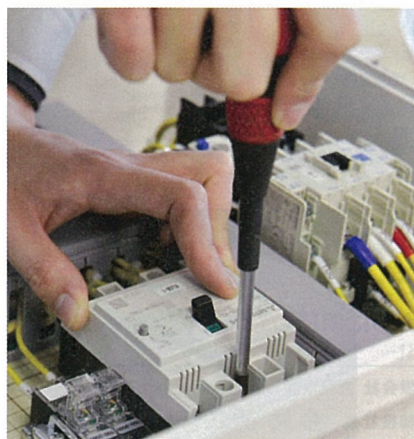




野菜洗浄機の制御盤を製作中



ソフトもハードも一貫して担当

就きたかった農業関係の仕事で、
興味があったシーケンサーをやっています。

株式会社エフ・イー
システム制御課

やまもと ひろあき

山本 大明 さん

北海道立旭川高等技術専門学院 システム制御技術科 2015年修了

手にするのは制御装置。うしろには野菜洗浄機

社長が技専に要望した技術を身につけて就職。

技専を卒業したばかりの山本大明さんが働くエフ・イーは、野菜洗浄機という特殊分野で知る人ぞ知る有名メーカー。優れた製品や開発エピソードはテレビで何度も取り上げられ、顧客は海外にも広がる。同社製品には、山本さんが学んだシステム制御のシーケンサー技術(機械をプログラミングしコントロールするもの)が欠かせない。

「シーケンサーは、旭川機械金属工業振興会会長を務める当社の社長が旭川技専に要望したカリキュラムなんです。現在、大きな規模でシーケンサーを学べる場所は、旭川では技専と高専の2校くらいだと聞いています。

技専では地元産業界の要望に即応して、2011年に電子工学科からシステム制御技術科に科目転換を行った。そこで山本さんはプログ

ラミングをいちから学んだ。

「農家だった祖父の影響で、中学生くらいから将来は農業関係の仕事に就きたいと考えていました。農業高校で学ぶうち、農作業をサポートする機械に興味をわき、電気や制御を勉強したくなって技専入校を決めました」

山本さんがエフ・イーを知ったのは2年次のインターンシップ。そこでシーケンサーの面白さに改めて気づいた。旭川でシーケンサーの技術を持つ企業はまだ少なかったのも、同社にお願いして技専へ求人票を出してもらった、と笑う。強く望んで入社しただけあって、仕事での充実感は大い。

「入社1年目の僕でも、図面を引いて配線するまでの制御盤製造を一貫してやらせてもらえるので、自分で何かをつくっているという実感

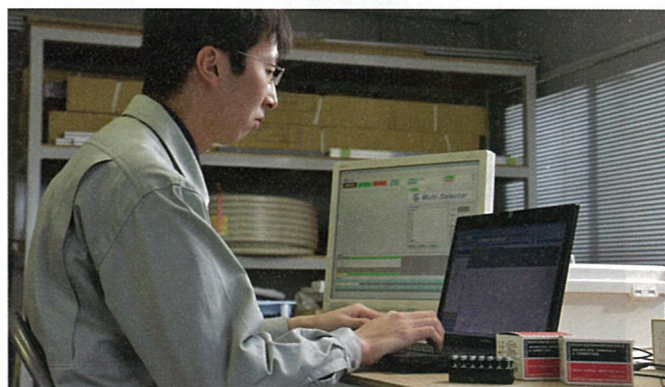
がわいてきます」

例えば、同じ大根洗浄機でも発注する農家や企業のニーズによって仕様は異なり、カタログ記載の規格品であっても制御盤製造は同じ作業の繰り返しにはならない。そこに面白さとやりがいを感じる、と山本さんは話す。

振り返ってみると、技専はさまざまな技術に触れる場だった。追求したいことを見つける通過点となった技専で、山本さんはシーケンサーと出会った。山本さんは後輩に助言する。

「プログラマーになりたいなら、できるだけ早くその意志を固めること。プログラマーの就職活動は始まりが早く、期間が短いんです」

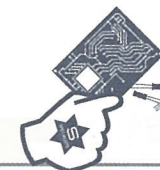
それに待っているのはダメ、能動的にと話す。「シーケンサーとC言語はやっておいて損はないですよ」



きちんと制御できているかを確認中

スペシャリストへの道 山本大明さんの経歴

- ↓ 2013年3月 深川東高校卒業
- ↓ 2015年3月 北海道立旭川高等技術専門学院修了
- ↓ 2015年4月 株式会社エフ・イー入社



株式会社エフ・イー

〒078-8273 旭川市工業団地3条2丁目2-27
TEL 0166-36-4501
http://www.fesystem.co.jp/

営業品目

- 野菜洗浄機・選別機的设计・製造・据付
- 地下タンク・オイルタンク・压力容器の製造
- ろ材洗浄選別装置の设计・製造・販売・リース

会社の特徴

根菜類を中心とした野菜の洗浄・選別を行う機械に特化し、オーダーメイドを中心に製造販売。葉付き状態の大根洗浄や浄水場ろ材の再利用などの細かなニーズに対応する優れた技術開発で、国内外に多数の顧客を持つ。



地域性のある高いレベルの教育を
技専は実践していますね。

株式会社エフ・イー
代表取締役社長 佐々木 通彦 さん

これからの機械には自動制御が欠かせず、シーケンサーの技術が重要になる。業界の共通認識がカリキュラムに反映され、地域に根差した技専の特色を改めて感じました。旭川工業団地内にある旭川工業技術センターでは、技専とコラボで従業員向けのセミナーも実施。技専の教育に触れて、技専の訓練生を採ってみたいかなという企業が現れたり、よい関係づくりができています。山本君は、自分で判断して能動的に動ける人。応用力・理解力も高く、仕事を面白がっているのがうれしいですね。当社は20~30代が中心。若い彼らが育つことで企業の実績もつきますから、次の世代にバトンタッチするためにあえていろいろらせています。

